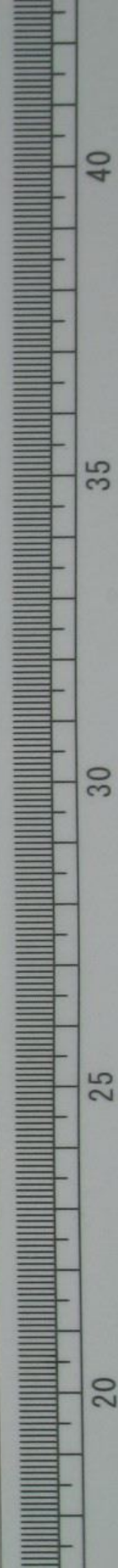


漢典通考

二

洋学文庫
文庫 8
D 255
2



文庫8
D 255
2

書典通考卷之二目錄

赤間弁

豊良住吉

薄墨松

集人明神

定風景

定明神

水垂

小橋

大橋

一口

美津里

八幡山

橋本

檀の浦よりふと乃瀬戸ゆき

集人より内裏ゆき

阿弥陀寺

龜山八幡

柳之浦

柳之浦

八王寺

宝寺

觀音寺

狐川



010190614064

39 7985

西のうらみありて同く推海藻と刈
 くえ朝の代りあはる事より代わりの二社
 の神祕まじり仰め候りあり電山の八幡
 を祝ひ教少中へ純なりて觀元年十二月
 がけりの観音寺も毎年九月十日有る儀
 乃ち入水なれば年毎に松を殖ふ大母
 深源なるが故に述べて置きたるゆゑに
 榮えくつ司馬并我霞ひくとあること見せ給
 未だありたりしやうかとのあとに見ゆる
 乾珠嶋瀬珠島茂見渡雪海中ありて

永福寺と云ふ所の層岩殿にありて月夜に
のぼる雲の如きなり本をよみて飛驒の番匠の傳を
るやと習ふなり土座なる不き中、木索懸
あつたふ家蟬の鳴くもある物なり事
ゆきくゝんつゝそゆる所にて明
硯膚細わうめゝしめその似たり
然りと云ふ所の眼の妙なり
新り我ぬゝ好い色に飛く音
花を散ひて行くかや

わが

香

一宮豊浦住吉

山邑豊浦郡
一宮住吉荒魂
大明神也府中
引二十八町西看

長府道

舊檀子

豊前国隼人大明神
後山九国ノ前ハ海向ハ
長州壇之浦 本社ハ山
乾アリ石壇海中ニハ
石之鳥居立

田之浦

雨がノボ

長門赤間關名所

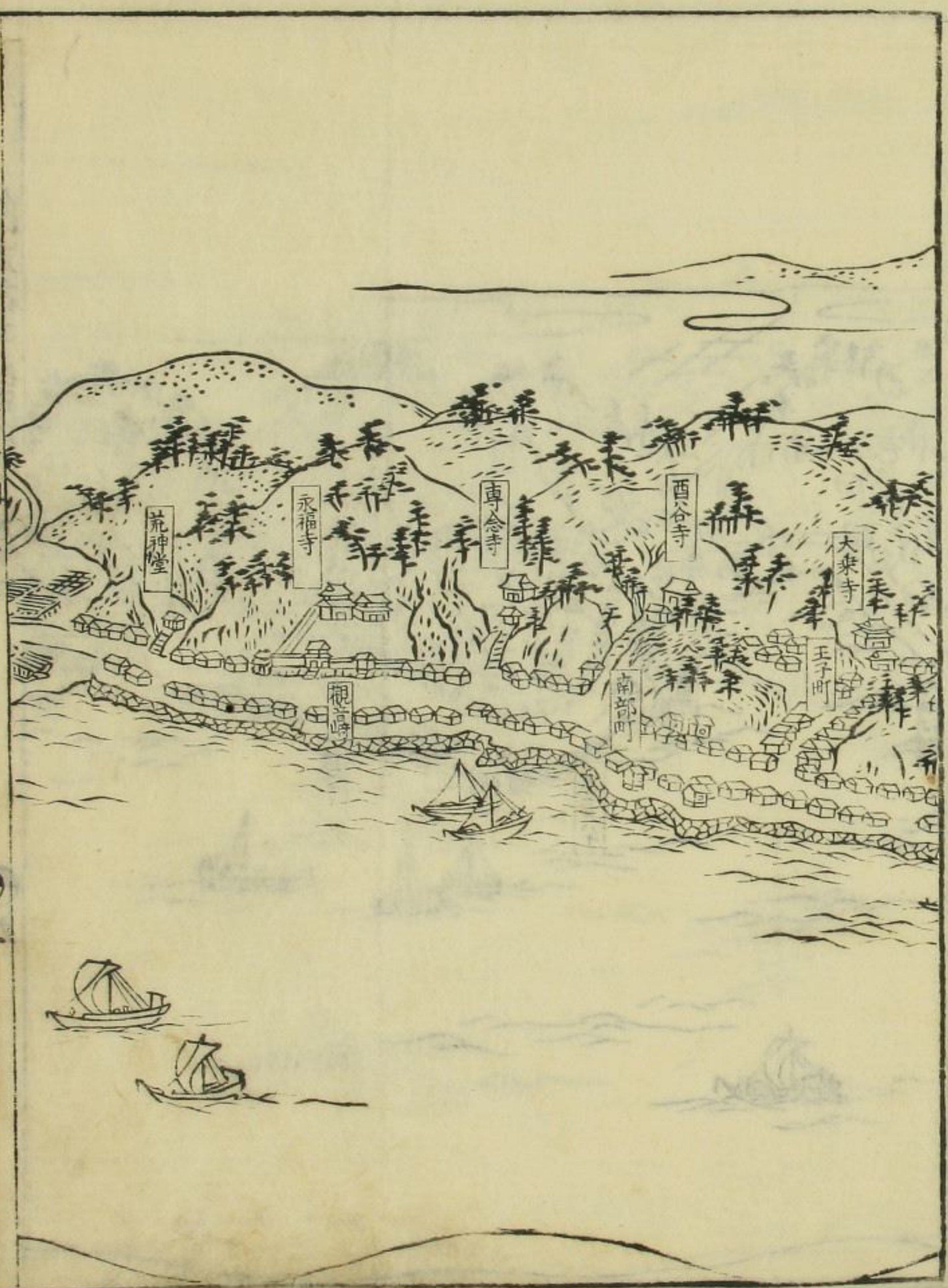
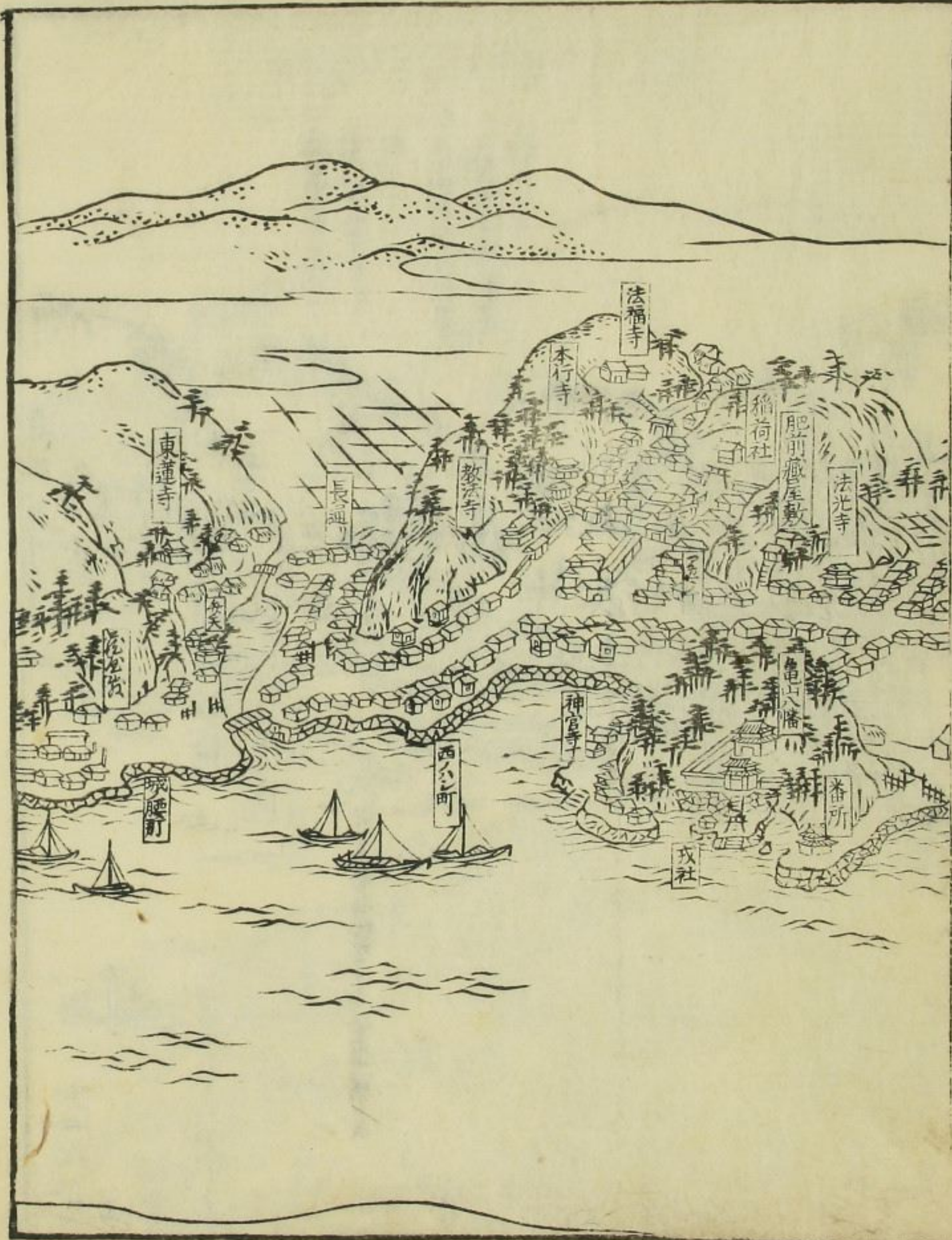


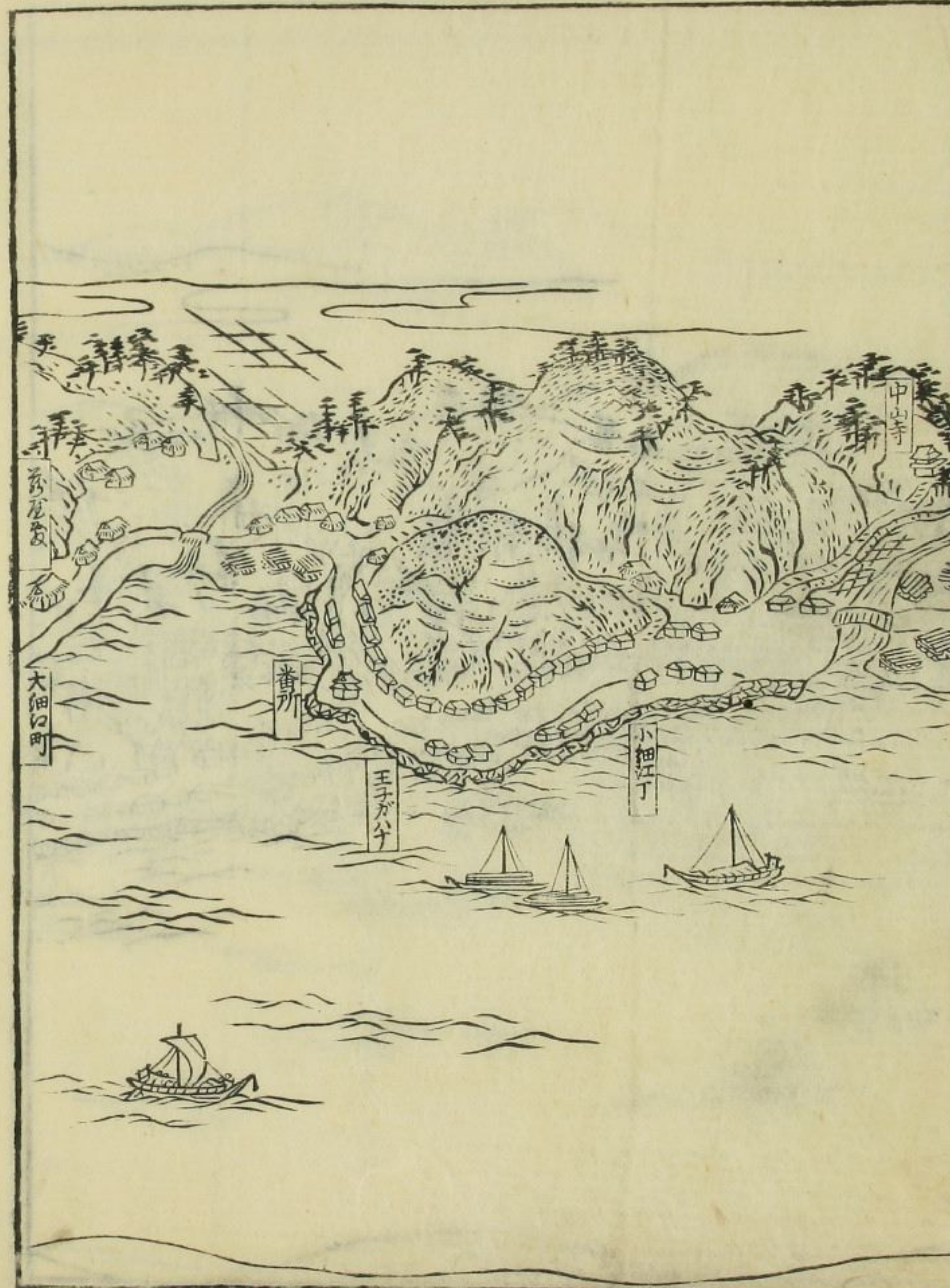
○薄墨之松大水ニテ
向地門司之冥カクス
故ニ名トス

○阿弥陀寺平氏没落
之縁起屏風ニ面シテ
此寺ニアリ

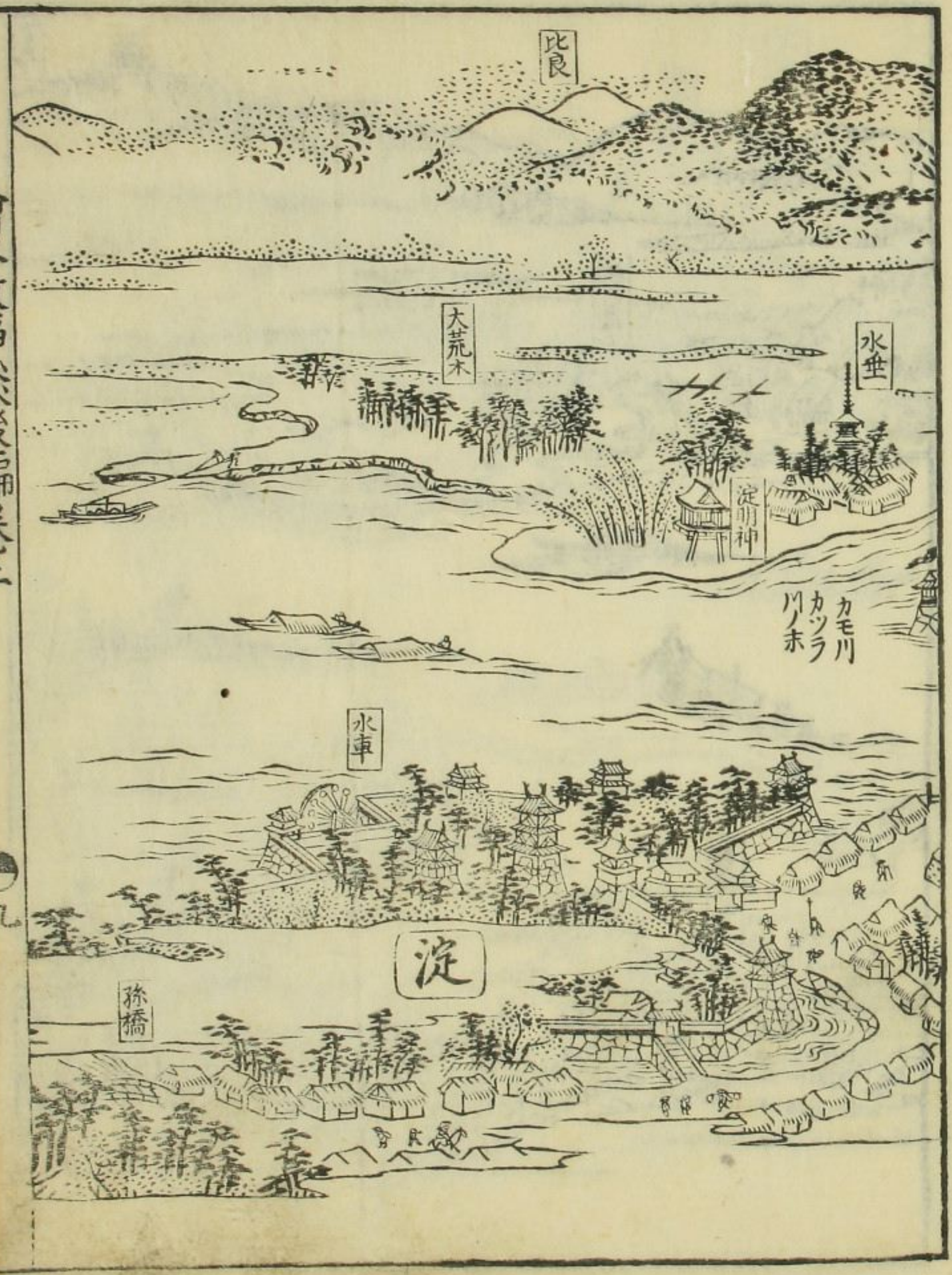
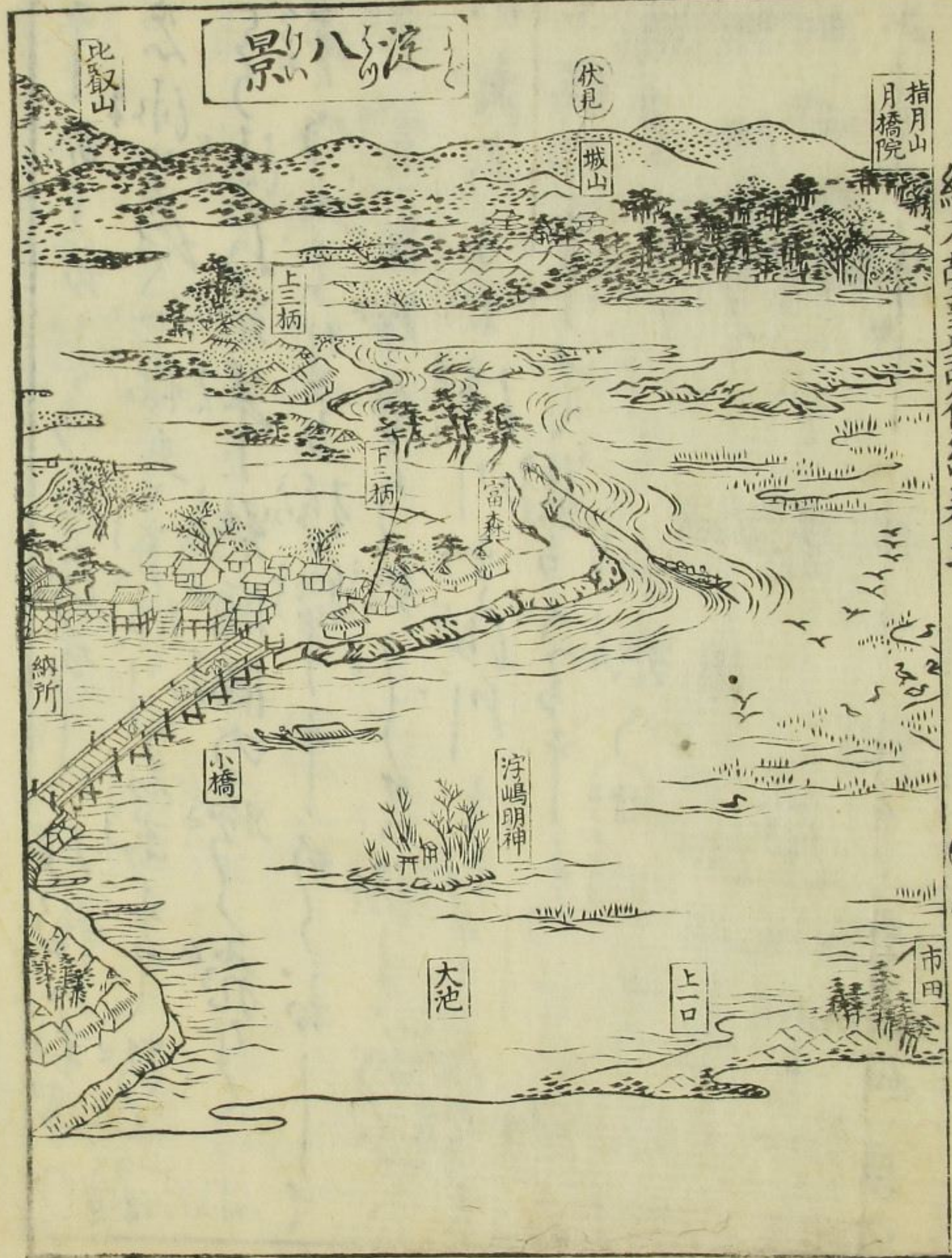
勝應寺

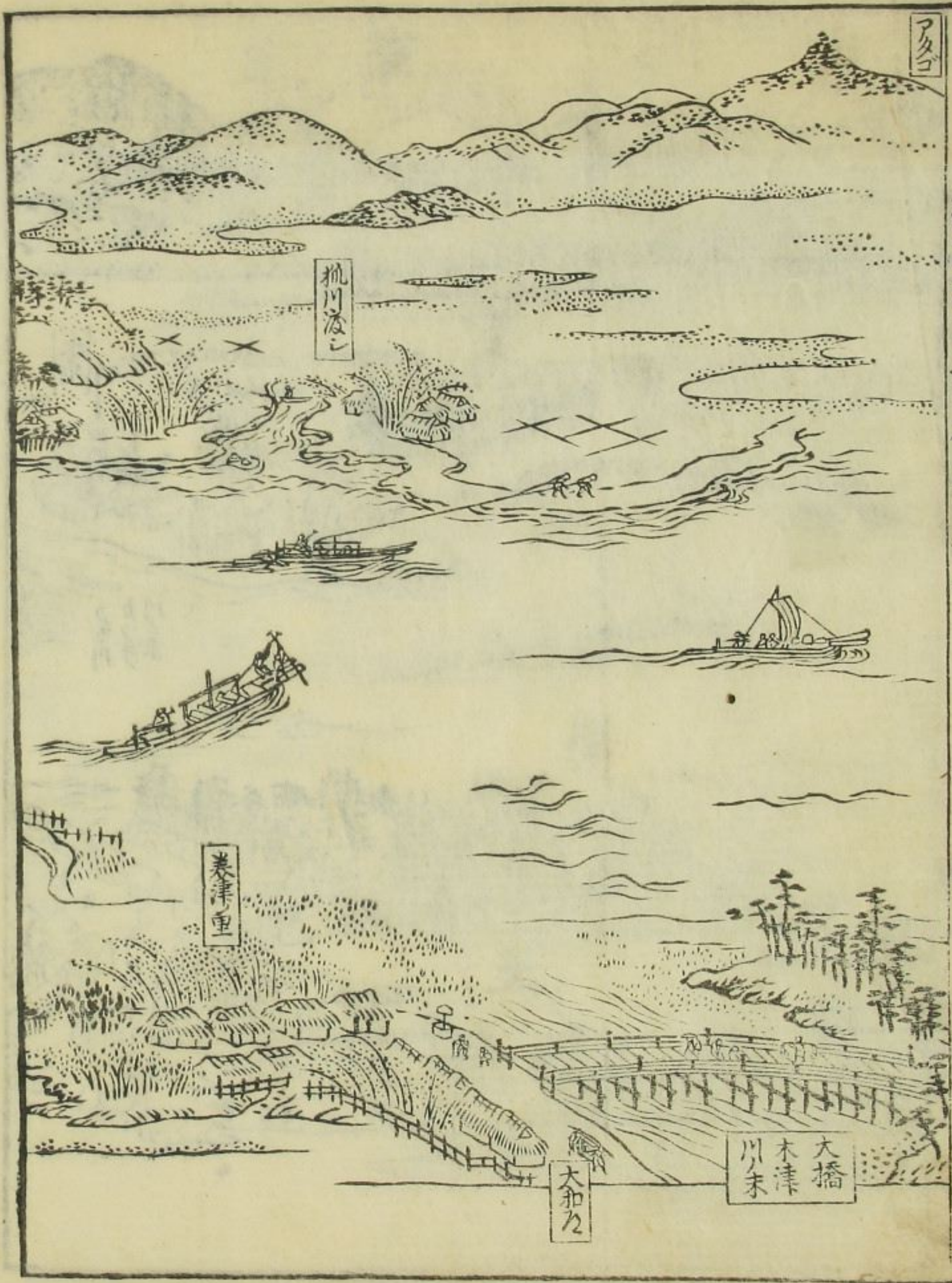












大山崎

天王

宝寺

山崎渡

八幡山

橋本

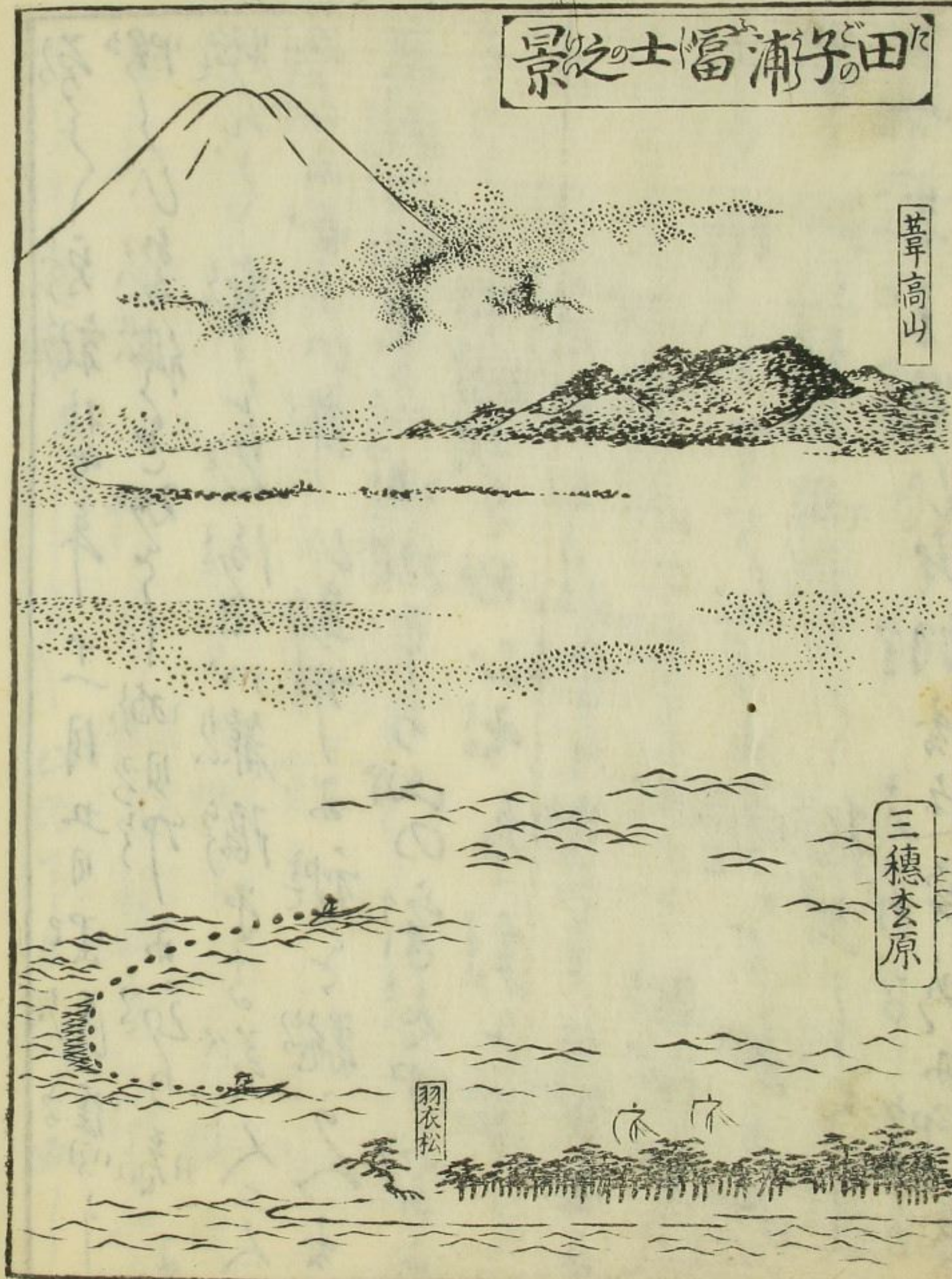
大坂

田子の浦富士の景

草高山

三穂玄原

羽衣松



富士

富士川

吉原

原

浮島

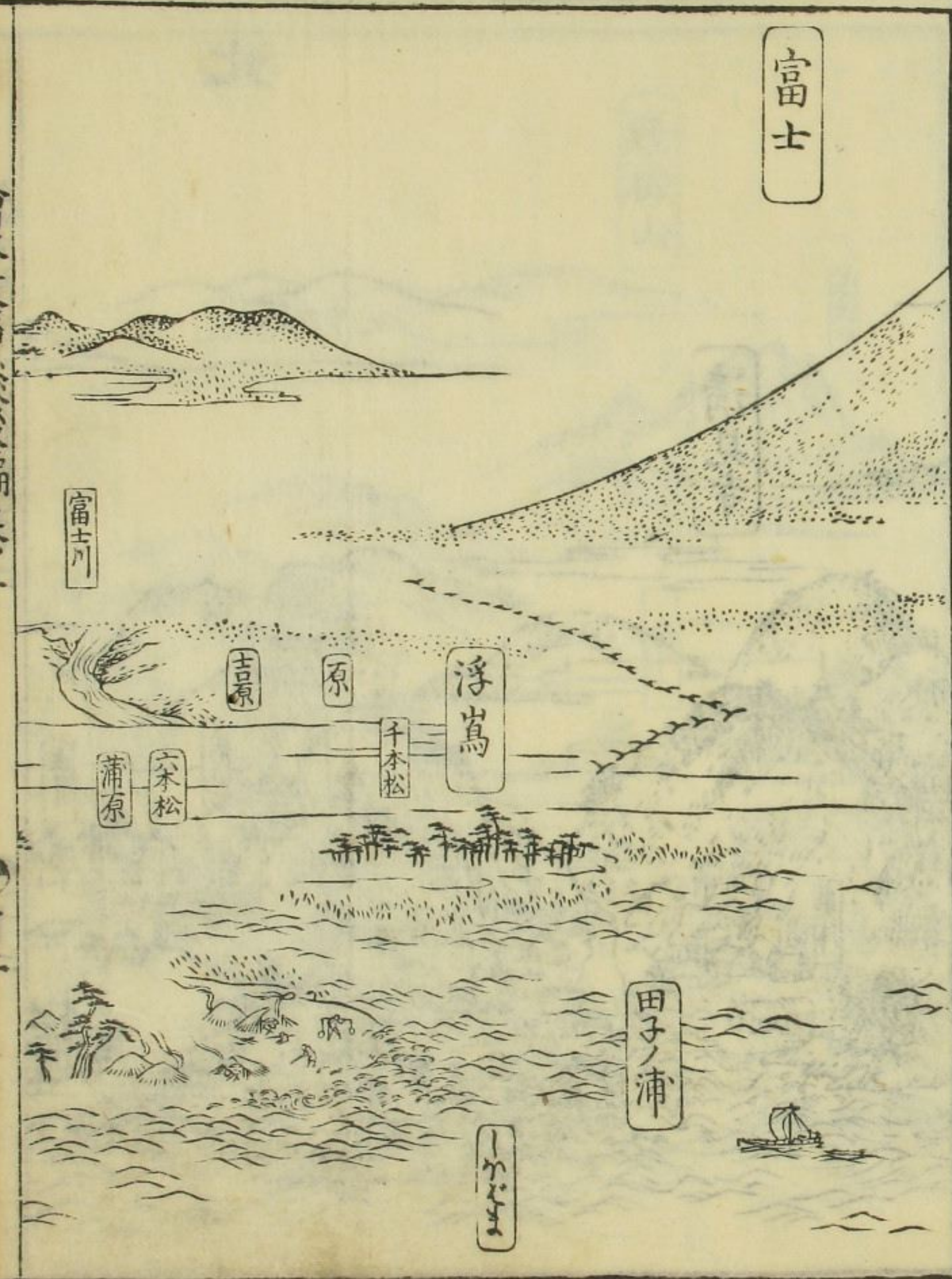
千本松

六本松

蒲原

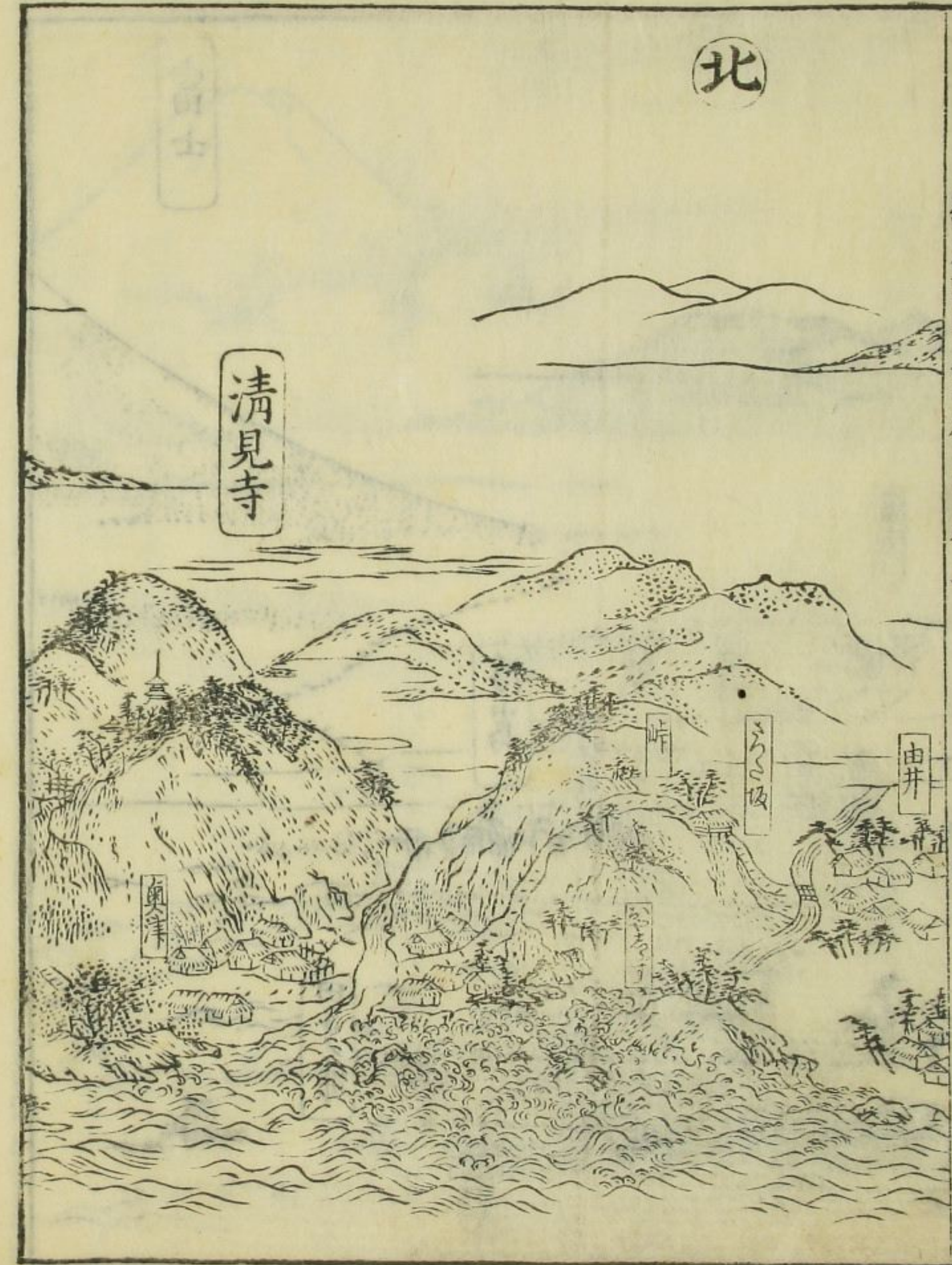
田子の浦

一かど



北

清見寺



賤機山

浅間山

府中

菊子

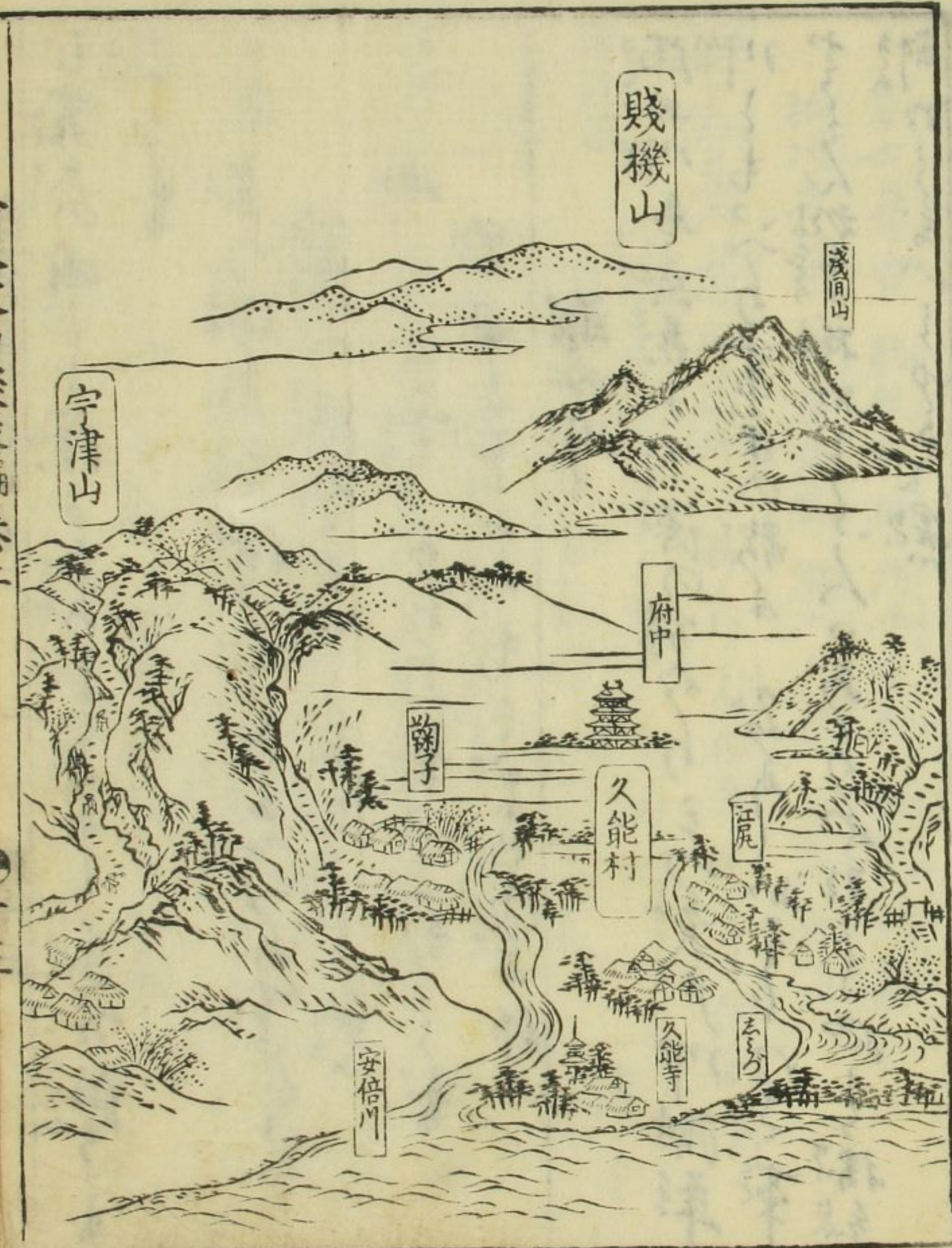
久能村

江尻

久能寺

安倍川

宇津山



隅田川景

隅田川秋月

関屋落雁



潮入夕照

橋場夜雨



待乳晴嵐



洲崎晚鐘

富士暮雪

駒形歸帆



家集

誰の又彌々ゆゑに詠ひし
南河原系乃 初を言ふそ

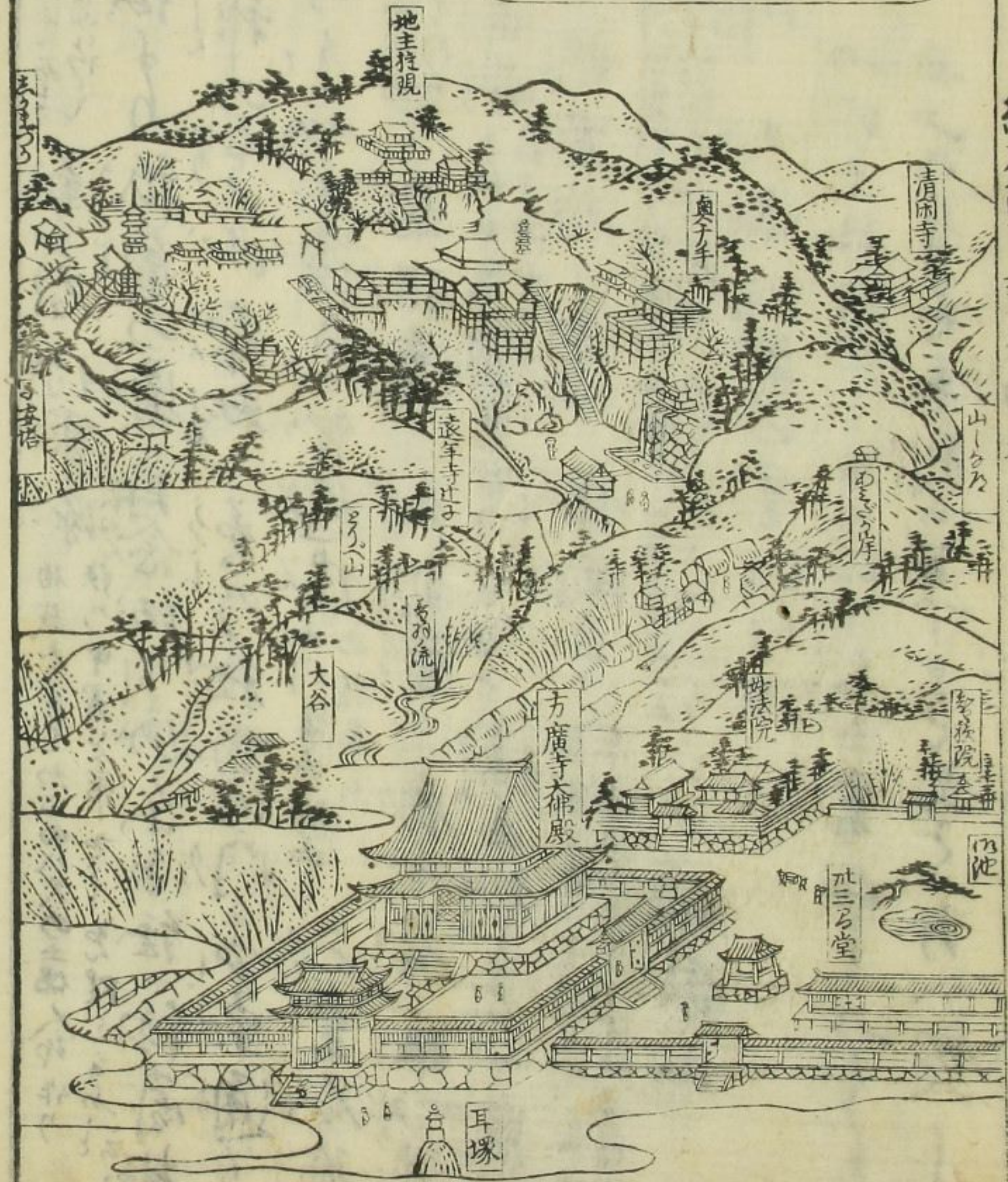
南河内系所
初めはふそく

新

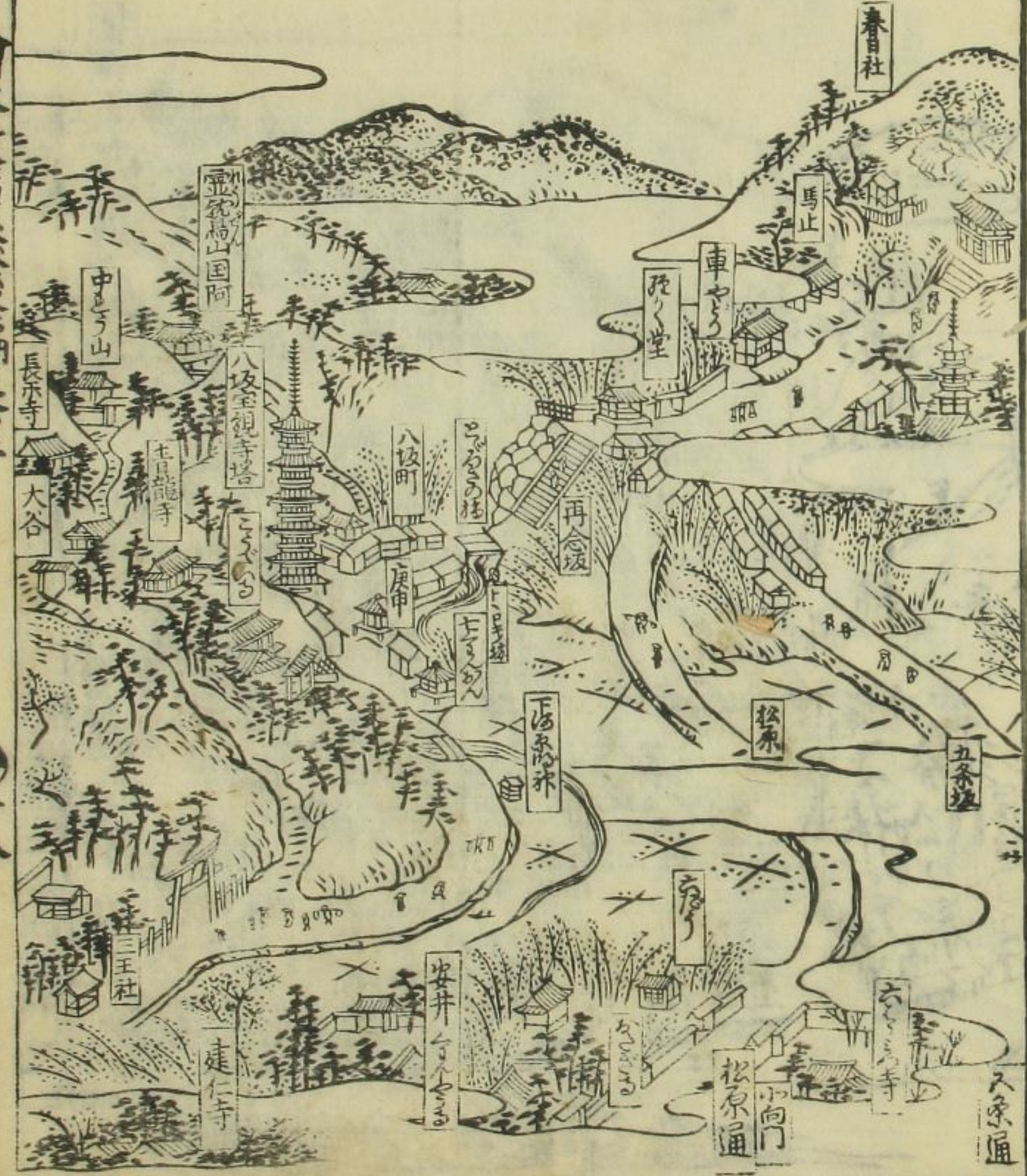
京東山

江戸の風景を事繁くことぐれぬ事とするは
 遠あゝも最を要とするを載る東山音羽山
 清水寺本堂無の子手二町六臺あり無の子手
 の下龍王宮二町の淵多相の龍あり薬師清栄寺
 権現鹿場塚田村利仁車宿馬停八坂の塔
 烏都野是より豊國大佛三福三間堂是
 七条通りより高き丸山東衛寺長樂寺高松寺

京東名山所

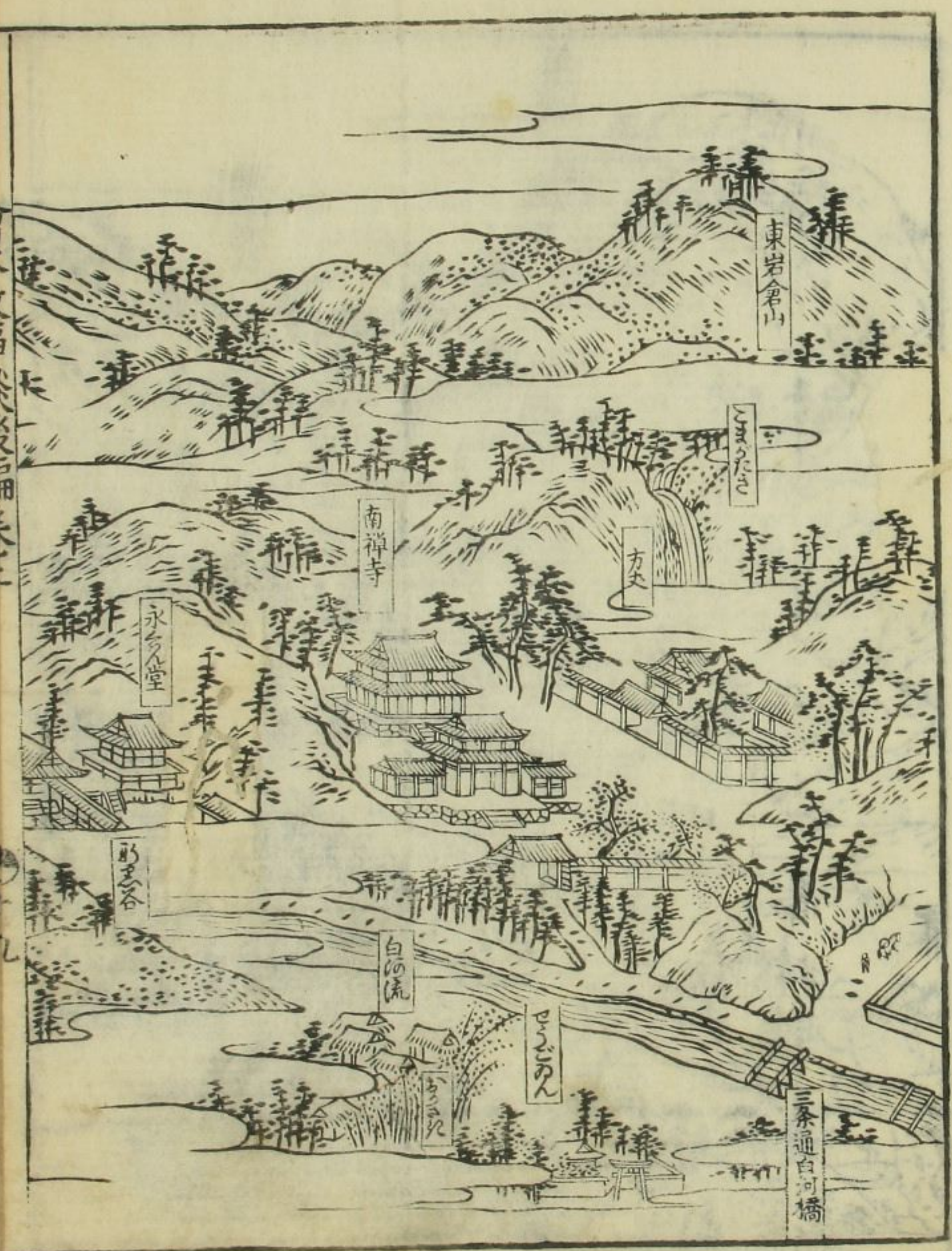


新古今言集卷二



新古今言集卷二

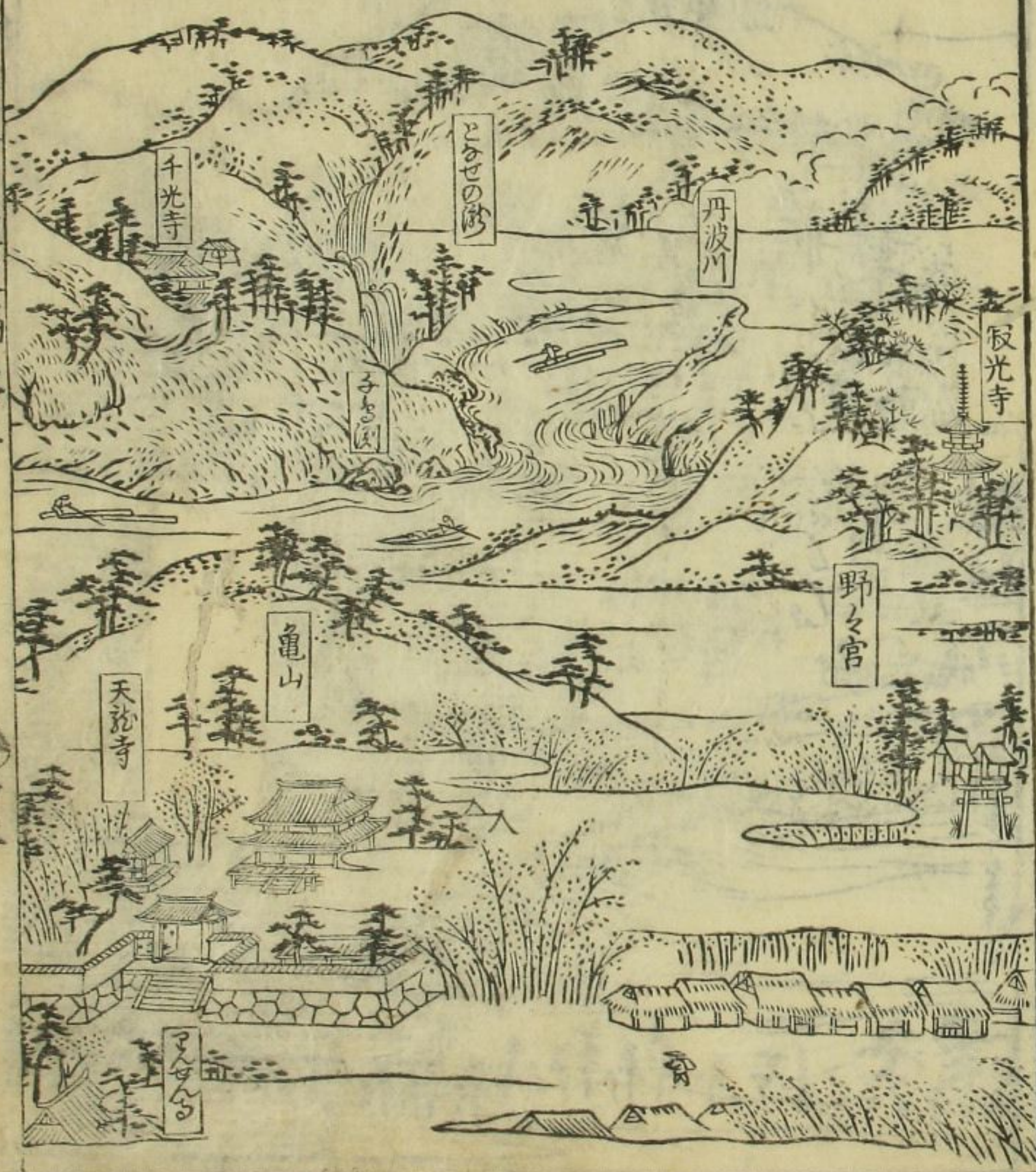
日本書紀卷之三

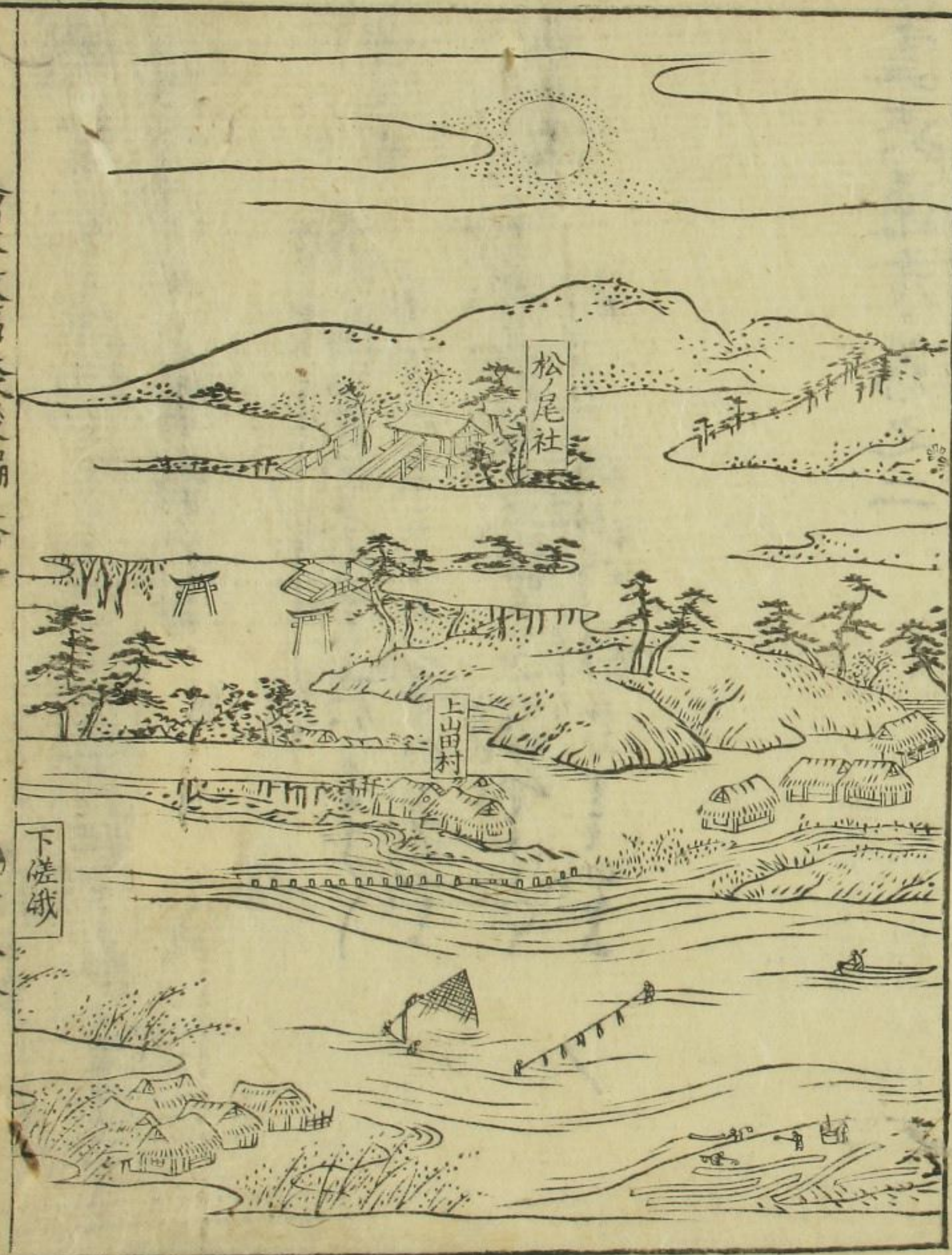


日本書紀卷之三



京西山名所





暇あるに華揚つゝも此陽春の幡籠するに
浮世の浮世と云々續つてあるものや

續古

後拾遺

春の華の志を續く
花と云ふは春の向ふ
お井河右も此志を續く
あゝの山に花を續く

盡典通考卷之二

